

## 令和5年度 第1回津山市史編さん委員会議事録【要旨】

日時	令和5年8月29日（火）13時27分～14時42分	場所	津山市役所 202 会議室
◆出席者			
【委員】	在間委員、今津委員、尾島委員、定兼委員、白石委員、首藤委員 久野委員、前原委員		
【津山市】	総務部長、津山市史編さん室長、室長補佐 ほか11名		
<p>1. 開 会</p> <p>2. 総務部長あいさつ</p> <p>3. 委員の委嘱および正副委員長の選任</p> <p>4. 報告事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 令和5年度の事務局体制</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 令和5年度の編さん事業予定</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 各部会の開催、進捗状況等</p> <p style="margin-left: 20px;">(4) 通史編「自然風土・原始・古代」の刊行について</p> <p>5. 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 新修津山市史刊行スケジュールの調整について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 「市史研究」「市史だより」の編集について</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 津山市史編さん委員会議事録【要旨】の公表について</p> <p>6. その他</p> <p>7. 閉 会</p>			
事務局	令和5年度第1回津山市史編さん委員会を開会		
部長	総務部長あいさつ		
事務局	出席者の確認。8名の委員のうち1名が遅れるが、過半数の出席で会議の成立を宣言		
事務局	委員委嘱	委嘱状を机上配付	
	正副委員長の選出	委員に発言を求める。	
委員	「引き続き、現体制で」との意見あり		
事務局	前のお二方に引き続きということで今ご意見がありましたが、それで皆さんよろしいでしょうか。		
委員	「結構です」との声あり。		
事務局	委員長には定兼委員、副委員長には尾島委員を選出ということでよろしいか。では、お二方から一言ずつご挨拶をお願いします。		

委員長 委員長あいさつ

副委員長 副委員長あいさつ

- ◇報告事項 (1) 令和5年度事務局体制  
(2) 令和5年度の編さん事業の予定  
(3) 各部会の開催、進捗状況等  
(4) 通史編「自然風土・原始・古代」の刊行

事務局 津山市史編さん室職員より説明

委員長 報告事項について、皆さん何か質問とか、詳細説明を求めるとかはありますか。それでは協議事項の方に入りましょう。

- ◇協議事項 (1) 新修津山市史刊行スケジュールの調整について

事務局 津山市史編さん室職員より説明

委員長 スケジュールに関しては毎回だが、今年どこするか、来年はどこするかということで、それぞれの部会はこれに照準を合わせて、いろいろと調査してると思う。これが延び延びとなってくると、いい加減にしてほしいというところがある。せめて3年先はどこまで何々するかというところぐらいまでは確定をしていただきたい。市史編さん事業というのは刊行が目的ではあるが、市の歴史意識に関する文化活動でもあるので長くなっても結構だと思う。しかし、委員の先生、執筆をお願いした方々、それから話者に対する礼儀があると思うので、やはり何か絞りたい。

したがって、令和10年以降は別に年次なんか入れなくていい。10年以降にこれとこれをするというぐらいにして、6、7、8、9年はこれとこれをすんだというような形のスケジュールでいいのではないかと。予算取りの関係もあったりするんですが、要するに信頼関係が失われてる。しかしながら、やらなければいかんということでみんな頑張ってるだけ。

前回の会議で、中世は1巻でもいいのではないかと、1冊にまとめてもいいんじゃないかと、それだけ薄くなるにしても中世と近世1は一つの巻にまとめるより、その方が手にとって見やすいのではないかとということも提案した。この辺りもまた改めて。だから刊行スケジュール、刊行計画も見直ししてもいいのではないかと思う。

それから、印刷したものを本の中に入れる正誤表もあるが、正誤表という一つの簿冊を作ってもいい。例えば、中世資料編は非常にいい資料ができていますが使い勝手が大変悪い。なぜならば細目次がないから。細目次があるとないでは全然違う。細目次だけでも20ページぐらいいく。細目次やっぱほしい。

新修津山市史の別冊を時々出すというような、民俗編なんかは中間報告的な形のもの、別冊を出すというようなものも考えていいんじゃないか。

全何巻のものを公的にするという年次計画を周知いただきましたが、それとは別途違うものも考えていいのではないかとということと、刊行計画の年次を張りつけるというものについて、先々のことはもう少し明快でない形でのあり方を、市民に対して公に出す刊行計画はそのままにしてもいいと思うが、この委員会の中での腹づもりとしてやっていいんじゃないかと。

委員 市の重要な事業の一つとして進めていく。そのためには、やはりこういうスケジュール、企画の案に則っていないと。先ほど言われた予算の問題もある。諸処の事情で今日のよ  
うな状況があるのは承知しているが、これはこれとして置いておきませんか。

もう一つは、事務局の皆さん、ものすごく大変な仕事をこなしている様子。今言われた  
新たなものをまた考えるというふうなことは、やや無理のような気がする。

委員長 今、スケジュールはスケジュールのままでいいのではないか、それから違う別途なもの  
をスケジュールに組み込むことは、事務局には酷ではないかというようなご意見が出た。  
そのとおりとは思いますが。

事務局 援護射撃というようなご発言をいただいたが、基本的には市の総合計画にエントリーを  
して、それぞれの委員会の承認をいただいて動く。ただ、継続事業としての色合いが強くな  
っている。将来的な財政需要とか、そういう点からも見込みとして必ずこういうことは  
出すんだというのは、今、5次の後期ということになるが、6次以降、引き続き要望しなけ  
ればいけない。

それから、委員長からご提案があった、いわゆるこの本編を補うものについても、どう  
してもこれも出した方がいいということであれば、それぞれまたエントリーし直さなけれ  
ばいけない。なかなか融通が利かないが、こういう形で引き続きお示しをさせていただ  
ければ。

委員長 わかりました。無理なことを申しました。ただし、例えば「市史研究」にそういうもの  
を出していくとか、公にするパイプはある。それはぜひ反映していただきたい気はする。

スケジュールに関してはよろしいでしょうか。それでは、こういうスケジュールがある  
ということをもって私どもは進めていくということ。

続いて「市史研究」「市史だより」の編集について。

#### ◇協議事項 (2)「市史研究」「市史だより」の編集について

事務局 津山市史編さん室職員より説明

委員長 「市史研究」「市史だより」の編集状況の説明がありましたが、いかがですか。  
この編集会議というのは誰がしたのか。

事務局 事務局です。

委員長 これは両方とも編さん委員会の専任事項ではないわけですね。

事務局 委員長からも、2、3回ぐらいお話いただいていると思うが、いわゆる編集委員会的な組織  
はどうかとご指摘いただいた経過がある。これについては、先ほどの編集会議の中でも議  
題として取り上げた経過がある。

現状で事務局、この春の人事の入れ替えの関係もあって余力がない。今までの編さん委  
員会ではこういうものは議題としては出てこなかったかと思うが、今回ご提案させてい  
ただくものについては少し中途半端で未定の部分も多いが、次年度以降は年間2回編さん委  
員会を開かせていただいているので、その中でこういう形でご提示をさせていただいてご  
意見をいただくなり討議をいただくなりということをお願いできないかという意味でこ  
こで掲載している。

委員長 続いて、書評をぜひやってほしいという意見を申し上げた。書評を書くのも大変だと思  
うが、適任の人がいなかったら若い人にやらせて勉強させるというのも手だと思  
うが、ぜひあてがってみてください。

事務局 書評については、今年度、通史編の考古部門、古代・中世というものが形になるので、今からある程度当たりをつけてから。

委員長 資料編の予定はないのか。

事務局 資料編も併せて、遅まきになるがあたりつけながら適宜。「市史だより」とかのコラム的な話になるかもしれないけれども、何らかの格好でご意見を第三者からいただくという形で人選をさせていただければと思っている。

委員長 アカデミズムの人達だけでなく市民の声を反映する。これ重要なことだと思うので、ぜひ「市史だより」とかでもよいから活かせるようにしてもらえたら、市民とキャッチボールしながら市史編さん事業が進んでいるというような形にはなる。

◇協議事項 (3) 市史編さん委員会会議録【要旨】の公表について

事務局 津山市史編さん室職員より説明

委員長 これにつきましていかがでしょうか。

委員 公表はホームページでということになりますね。何か形になったものを用意するという事ではないですね。

事務局 原則、ホームページで公表する形で考えている。

委員 資料2の方に黒い丸が二つずつ付いている。これは公表はばかられるような文言なのか。

事務局 これは聞き取れていない言葉。重要な箇所なので黒丸でお示ししているが、発言されたご本人にも思い出してもらえたらありがたい。こういう主旨で言ったというのをお聞きして一番ふさわしい言葉をとっている。

委員長 ある意味マニアックな人が読まれると思うが、だからこそ読んで食いつくことがあるかもしれない。市に対して何か提言を言ってもいいぐらいの発想で読む人もいるから、どういう形でも反響があればいいこと。わかる人のみわかるというような議事録のような気がしないでもない。

事務局 どうしても個人の内容というのが出てきがちになる。それをどうやって、なるべく個人が特定されないようにするかというところで苦労があった。

委員長 開示請求になると、この議事録だけではなく実際を見せてくれということもあるだろうが、ここでは金銭に絡むことは決定してないので、さほど問題はないけれども。要するに見積もり徴取、どこどこ取ったか、入札どこどこか、そんなことを言うてくる。

事務局 見積もりは、指名入札か一般競争入札か。それは市史編さん室がするのか。

委員長 契約担当部局。

事務局 我々はどういうふうなものを作り上げていくかということ協議しているわけだが、部数を減らすとかは予算関係の協議もある。こういうことについて公にしておいた方がむしろいいと思うので、開かれた委員会ということを示すものだと思うから。編さん者一覧みたいなものも公表しますね。肩書きとか大丈夫だね。

委員長 ここまで会議録要旨の公表についての協議があったが、皆さんこれでよろしいか。黒塗りのところは明快にして出す。改めて読み直してみてこれはと思うところがあったら連絡してください。委員からの意見は9月10日までということを進めてください。

## 6. その他

- 事務局 過去の委員会からの懸案事項が幾つかあったので、それらについて報告させてもらう。既刊の本編の冊子の正誤表だが、これは現在準備中で9月中には市ホームページなどに掲載をするというような対応をとらせてもらう予定にしている。
- また、市史本編のPRチラシを配ってほしいという話があったが、これについては、今年度初めに作成して、市役所本庁舎、東庁舎、各支所・出張所、公民館などに配付済みです。
- 委員長 何部されたか。
- 事務局 各施設に20部ずつ配付、公民館は23館全てに配った。
- 事務局 一部の方から執筆者全員への冊子配付要望があった。担当の分野以外でも執筆の参考にしたいとの声があると伺っている。これについては、参考としてご覧いただける冊子を用意するにとどめ、全員への配付は控えさせていただく。ただ、どうしてもと言われる方には特別に対応させていただく。
- それから、次回2回目の委員会は来年2月頃を予定している。時期が近づいたら早めに日程調整させていただく。
- 委員長 その他に関して何かあるか。
- 事務局 正誤表に関して、9月中には市のホームページに掲載すると報告したが、これまでの購入者への対応も当然必要となってくるので、今年度以降刊行する冊子に、例えば正誤表これこれと案内する形も併せて、できる限りさせていただければと思っている。
- 委員長 自然風土・原始・古代の先生方、ご苦労さまでした。この度のことで感想でも、刊行に関することでも、今回の編さん委員会についてでもご発言を。
- 委員 多人数だったが、各執筆者には何か新しい視点からいろいろ書いてもらっているの、ぜひ何とか売ればいいなというのが一番。特に古代編を読ませてもらうと災害のところが非常に面白かったというのが感想。新しい要素を取り入れて今回執筆してもらったので、いいのができたかなと思っている。
- 委員長 編さん委員長ということで巻頭のひと言を書くという役を仰せつかって、2月段階での編さん状況を拝見した。前回の協議でも話したけども、やはり全体を通して見る者、監修というものが必要ではないかと。次回以降はそうさせてもらいたいと申し入れて委員会です承いただいたが、そういうことをまず思った。
- 章立てのあり方なんかについて、ひと言入れさせてもらったことがあった。1冊の本としてのあり方としては恰好があるので、それを是非ということで申し入れをした。巻頭の言葉を書くだけに収めず、ちょっと差し出がましいことをした。
- だけでも、読ませてもらって、先ほどいわれたように、災害、これ災害考古学というのがあるんだね。自然風土・原始・古代の冊子は、災害について目配りができていると思った。通史編の第1巻、これはいいものだ。したがって、中世、近世、近代もやっぱり災害はこの市史の一つの共通項、一貫通貫するテーマがあったらいい。災害に限らず、人々が生きるということに関して、どういうふうに住生活していたかということでもいいのかもしれないが、一冊のあり方としてはいいものをお示しいただきありがとうございます。
- 委員 次が近現代の発刊なので少し聞いておきたい。1年かけて製版して、その次の年が発刊ということだが、製版は大変工程がかかるので1年というのはわかるが、製版の間で校正とかを済ませているので、発刊の1年というのはかなり余裕があると思うが、これまでの発刊から大ざっぱな流れなど教えてもらえれば。

事務局	今回、新しいスケジュール案をお示しているが、もともと刊行計画を組んだ段階ではこのような2年跨りになる形ではないものにしてきたが、予算上、市の総合計画に上げないといけないということがあり、その総合計画の方で3年から4年ごとに計画が生まれ、その先何年間かの大枠、事業費としての総額が内示される段階で、要望していたものより厳しい内示を受けたということがあり、結局、こちらの計画どおりに組めない関係上2年跨りになったり、さらに順送りになったりで、今回1年遅らせて、当初の計画からすれば4年ずれたことになっている。版下を作ったものを次の年度で刊行という、もう版下ができてるんなら刊行1年もかけなくてもというのはごもっともな疑問だと思うが、予算的には金額がそれなりにかかるものだから、こういう形にならざるを得ないところになっている。
委員	予算を確実に取るために2年分をかけて1冊を取ってる、そういう理解でいいのか。
事務局	そうですね。それで跨って刊行、前年度に版下作って刊行している。その年には次のものの版下を作るという感じで組んでいたのが、これも現状いろいろあって、5年度までをみると、結局版下を作って刊行して、版下作ってという形に結果的にはなっている。
委員	今回の刊行の印刷とか製版の業者は、以前と同じ業者なのか。
事務局	印刷するのは市内業者で、今回の市史編さんの関係では初めて。ただ文化財関係で同様の出版を受けているので、品質的な担保はできるんじゃないかと思っている。
委員長	資料編の考古の版下をしたところと、この通史のところは一緒か。
事務局	版下、一緒。
委員長	版下を作ることによってオペレーターは実力がついてくる。市史はこんな形でやるんだということで、彼らの方が付度して訂正してくれるというところまで技術が進んでくる。3冊、4冊と進んでいくと。
事務局	資料編の古代の編集については、オペレーターが初めての方ということで、イロハのイの字からフォーマットを覚えてもらってということで、結構前後したりがあったが、何とか形にはなった。これが2冊目、3冊目という形であれば、同じ方がするという前提の話だが、品質的なものも安定してくるかなとは思っている。ただ役所なので入札というのはついて回る。
委員長	技術がついたほうが安く手は上がるんだけど。
委員	長期にわたる刊行になると、そのでき上がりの違いっていうのがある。業者が変わるとその見栄えが全然違うというのがあって、全体としての市史なんだけれども巻によって全然見栄えが変わることがあったりするんで、その辺はちょっと注意をする必要があるかな。
事務局	でき上がりの品質については、当然仕様書とかで指定はするが、品質管理の方はこれから打ち合わせをしてやっていく段階で。
委員長	紙の仕入れルートも違う。
委員	箱の色が違うとかもある。
事務局	今回の場合、布製本なのでクロスの関係だと多分すぐ出てくると思う。それは適宜、密接に連絡をとらせてもらって、極力、ほかの巻と差異のない製品にしていく。
委員長	今出てる2冊は品がいいものできているから、この品性を保ちましょう。
委員	通史編の刊行に関して執筆者の方はもちろん、考古、古代の資料編については、部会の担当者は、資料編と通史編と同時にされてると思うので、本当に事務局の担当者の方、ご苦労さまでしたと申し上げたい。

資料編については、正誤表のことが気になっていたが、今日、ある程度早めに公開してもらえるとわかってよかった。先ほども話題に出ていたが、「市史研究」の中で正誤表というのをきっちり活字として残すというのが将来的には大事になるかと思うので、ホームページで見られる方ばかりではないということもあるので、刊行して1年後とかにはまだ全部出揃ってなくて難しいかもしれないが、2年後、3年後ぐらいなら、順次出た号に関してのものは取りまとめて出すというのは、もう形式化していいのではないかと思うので、「市史研究」の編成という中にぜひ正誤表というのも項目として取り入れたらいいかという感じがした。

副委員長 市民の盛り上がりをもう少しできないかという意見が前から出てまして、その中で美作学講座をやったり、チラシを配ったりということなんですが、もう少し頻繁に市民を巻き込んだイベントだったり勉強会だったり活動が何かできないか。

これ以上負担を増やそうということではなく、何か他のイベントと組み合わせて考えられるものでもあればと最近感じて。ここの中でいろんなことを話をして、担当の事務局が頑張っただけで本が出て、我々はそれを知っているけど、その割に市民にそれが通じてない、知ってもらってないというのがある。その努力、成果も含めて、何かできないかなという、執筆者や編さん委員を使ってやるという形がいいと思う。

例えば単純に美作学講座をもう少し増やして、年間通してもっと市民にどンドンアピールするとか、それでは予算が絡むんで異論が出て来ると思うけども、そういった形のものや書評の話なんか出ていたけども、市史の資料編や本編出たらそれを読む会みたいな学習会のようなことができないかとか。事務局ばかりやるんじゃなくて、こちらの側の人をもっと上手に使って、何か市民にアピールしていくようなことをして、新聞に取り上げてもらってみたいなきょうができたらいいなと思っていた。具体的に何をというわけではないが、お金のことや美作学講座だったら大学の都合もあると思うが、何かできないかというのにはちらっと思っている。事務局の負担を増やそうという意図はないので、何か工夫してできないかなと思っている。

委員長 工夫は、知恵を絞って何とか出しましょう。こんなのやってみたいとか、何かご意見ありますか。やって失敗してもいいんですから、何かやればいいんじゃないかと思う。まずは副委員長からやってみましょう。

事務局 早速、今年お願いしております。

委員長 それではこれで終わりにさせていただきます。

副委員長 副委員長あいさつ

事務局 第1回津山市史編さん委員会を閉会